

第2次真庭市環境基本計画

多彩な真庭の豊かな生活



真庭市市民憲章

平成17年、それぞれの歴史と魂をもった9か町村の心が一つになって、「杜の都」真庭市が誕生しました。

真庭市は、美しい森林や瑞々しい旭川の清流、そして萌える緑の大地など豊かな自然に恵まれ、先人たちは、その自然を愛し共生しながら歴史を刻んできました。

私たちは、先人の労苦を偲び、市誕生の和の精神を受け継ぎ、市民一人ひとりが主役となり手を取り合って明るく躍進する郷土を築くために、この市民憲章を定めます。

 一、自然の恵みに感謝し、美しい環境と生き物を大切にし、未来に向けて守り育てます。

 一、ふるさとを愛し、郷土の歴史と伝統を受け継ぎ、文化の薫り高いまちを創ります。

 一、生涯を通じて学び、健やかな心と身体を養い、人格の向上に努めます。

 一、あいさつと笑顔のあふれる平和なまちをつくり、家族や隣人を大切にし、旅人を温かく迎えます。

 一、地域に根付く産業を育み、生きがいと誇りを持って働き、活気と賑わいのあるまちを築きます。

目次

真庭市環境座談会	1
計画に取り組む前に	3
計画の構成	5

[第1部] 計画について

計画の目的	8
計画の位置付け	9
計画の中での役割	10

[第2部] 計画の基本的な考え方

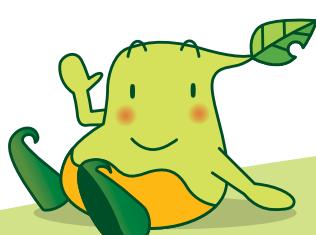
めざすまちの姿	12
環境政策推進のイメージ	13
政策推進の主な柱	14
めざすまちのイメージとSDGsとの関係	15

[第3部] 目的達成に向けて

環境政策を推進するための6つの施策	18
〈安全・安心〉 安全安心な生活環境の確保	19
〈循環〉 循環型社会の形成	21
〈共生〉 生物多様性の保全	23
〈自給〉 再生可能エネルギーの推進	25
〈郷育〉 協働による環境教育の推進	27
〈交流〉 関係人口の増加	29

[第4部] 計画の進め方

計画の推進方法	32
---------------	----





真庭市環境座談会



真庭市環境市民会議委員長、
副委員長と市長の座談会

環境市民会議に参加して

西本委員長 多種多様なそれぞれで活躍している専門家の方々が集まり色々な意見が出されていたこと、県立大学生の若い力のコーディネートによりスムーズに進行できたこと、生き生きとした声をうまく事務局がまとめていたこと、この3点がうまくかみ合い会議を進めることができた。素晴らしいと思う。

宮林副委員長 色々な立場の方とお話しができ、そしてみなさんが遠慮なく発言できる場を設けていただき良かった。みなさん、もっと真庭市の環境について勉強したいと言っていたのが印象に残っている。

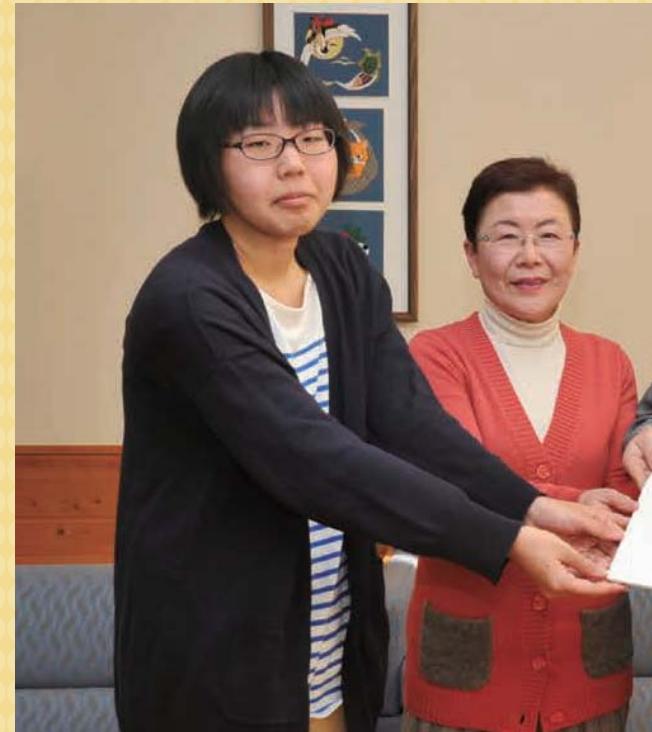
三浦副委員長 このような地域の取り組みに参加できて本当に勉強になった。会議までは真庭市のことを見なくて質問ばかりしていたが、委員の皆さんがあなたの魅力などを話しているのを聞くと、市民の方が自分たちのまちの魅力を言えるというのが素晴らしいことだと感じた。

西本委員長 我々みたいな年をとった人間にとっては、若い方から質問されると教えてあげないと、という意識になって、それが世代を超えて対話がはずんだ結果となった。真庭市の素晴らしい面がみんなの口から出てきたきっかけにもなった。

太田市長 歴史、気候、文化が違う多様な地域が合併して真庭市ができた。それぞれが違った地域であるが、旭川でつながっているので一体感を感じる。非常にいい合併エリアだったと今思っている。

真庭市を縦断する旭川

西本委員長 環境市民会議でも、旭川というキーワードが多く出てきた。市民のみなさんも大切に思っていることがわかる。



「真庭市環境基本計画」に関する提言書を太田昇市長に提出

宮林副委員長 鳥が多いということを通じて、自然の仕組みを学んだ。鳥が多いことは工サとなる虫が多いという事。虫が多いことは、樹種に富み、様々な下草が茂る豊かな森があるという事。そんな森から水は生まれている。私たち真庭市民は源流域に住んでいる誇りを持ち、下流域の人々にきれいな水を流していく責任がある。

太田市長 旭川の水は真庭市から生まれている。真庭市民だけでなく下流域の住民とともに、旭川のつながりを意識することが大切だと思っている。旭川の恵みを理解し、連携・協力あってやっていきたい。

宮林副委員長 つながりを意識することは難しいので、まずは上流から発信していくべき。大阪など都会の子供たちに真庭市を案内し水を飲んでもらうと、「美味しい!」、「もっと飲みたい!」、「ここに住みたい!」と言ってくれる。本当に素晴らしいものがここにある。

西本委員長 しかし、素晴らしい川、素晴らしい森があるても、そこで遊び学ぶといった人々、特に子供たちにぎわいが少ない。それはさみしさを感じる。

太田市長 私も同じ考え方。真庭市の子供たちにはこの豊かな自然と大いにふれあい、その中で自然の素晴らしさと怖さをもっと経験してほしい。自然の怖さを知ることで人の痛みもわかる人間になっていくのではないか。

本計画を策定するにあたって、市民・専門家・大学生などの様々な意見を取り入れるために、環境市民会議を開催しました。その会議からの提言書を提出するとともに、委員長・副委員長が代表して市長と真庭市の環境・資源・将来について話し合う座談会を行いました。



(左より:三浦菜月副委員長、宮林英子副委員長、西本孝委員長、太田昇市長)

真庭市の資源

西本委員長 最近では、大人でも生き物や植物の名前を知らない人が多いと感じる。

太田市長 日本全体が対人間、対自然との関わりが遠くなっている。人工的なものの中で生きていると感じる。それでは豊かな生活にはなりえない。

西本委員長 昔は自然に寄り添って生活していた。使えるものは何でも使おうと。その資源を再度掘り起こして生活を豊かにするために使っていき、市民が自分事として考えることが大切だと思う。

三浦副委員長 真庭市には木質バイオマス発電があり、これからは、バイオ液肥の活用を推進していくと知った。これらの取り組みは非常に先進的であると感じている。地域にある資源をできる限り循環活用していくというのには、地域全体で環境に向き合っている証拠だと思う。

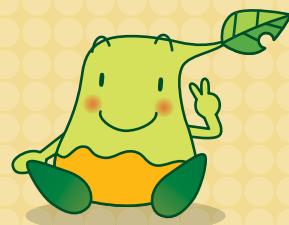
宮林副委員長 真庭市は他の地方都市と違い、びっくりする程自然度が高い。外から入ってきた人間ではあるが、今では真庭を誇りに思っている。真庭には旭川をはじめ、多くの資源があり、価値があるということを市民が理解することが重要ではないか。

太田市長 私も真庭市民が地域の素晴らしさを認識していないのではないかと思うときがある。灯台下暗し。自分たちの地域の素晴らしさ・資源を掘り起こすことはここにいる人だけでは思いつかず、様々な方との交流を通して実現できるものも多い。

三浦副委員長 市民の方の意識は高いと感じた。それを私たちのような外部の人とともに拡げていくことが重要ではないか。この会議でも最初は戸惑ったことでも、山を乗り越えることで、様々な議論ができた。

真庭市の未来について

太田市長 私たちが目指しているものは、決して東京のような高層ビルが立ち並ぶまちではない。永続的に地域が存在していくことを考えると、SDGsというキーワードが当てはまる。SDGsの考えは真庭市が掲げる真庭ライフスタイルと軌を一にしている。市役所と市民をつなげるものの、また、真庭市と世界をつなぐものとして17の目標を推進し市民のみなさんとともに永続的に発展できる地域をつくりていきたい。今回は本当にありがとうございました。市民の意識の高さが行政の水準を高めていくと思っている。これからも見守ってほしい。



計画に取り組む前に

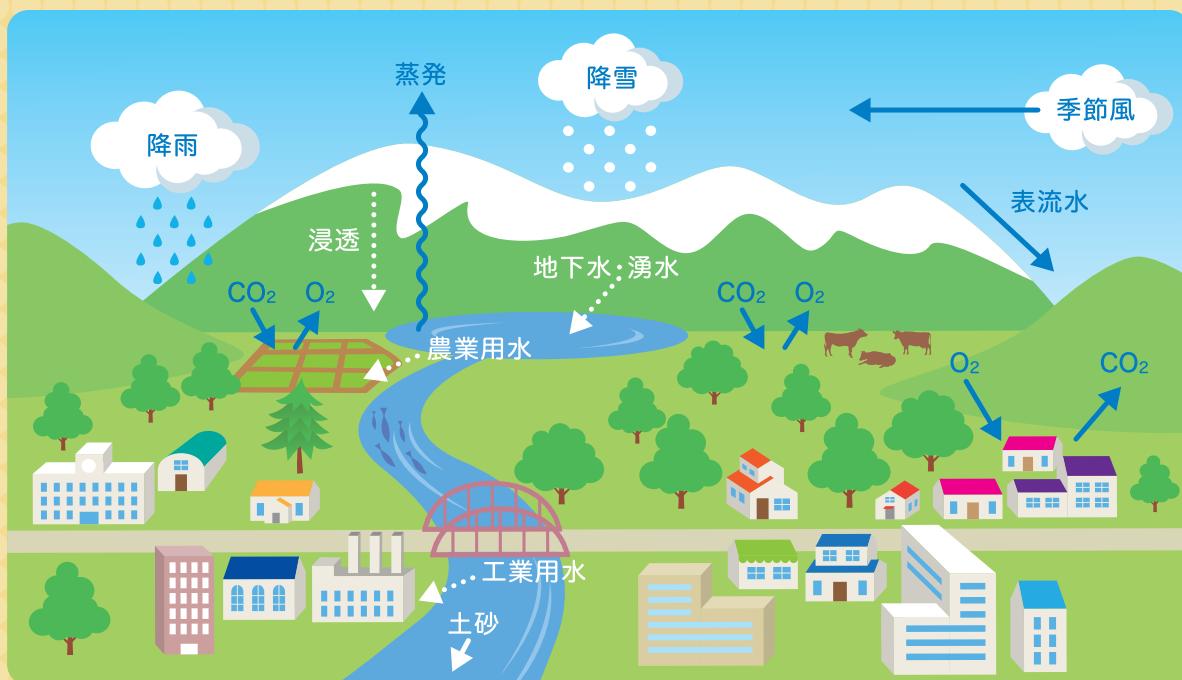
岡山三大河川の一つ、一級河川旭川は真庭市最北部から市の中南部を縦断して流れています。南北に長い真庭市を象徴する河川となっています。

真庭市は、その旭川の水が生まれる「源流域」に位置しています。数多くの支流からなる源流域は、豊かな森の恵みを受けてミネラル分に富んだきれいな水を生み出します。旭川は、飲用水だけでなく、農業用水や工業用水を提供するとともに、魚、水生動物や水生昆虫など様々な生きもののすみかになるなど、多くの「恵み」をもたらしています。生活や文化、産業など、旭川はわたしたちにはなくてはならない暮らしの基盤です。その水を、私たちが工場で作り出すことはできません。

真庭市の良好な自然環境があつて初めて得られるものです。

また、真庭市を出た水は、岡山市など流域の多くの人々の生活を支えています。自分が使った水が下流に流れていくことを意識し、下流に向けてより良い状態の水を送ることが大切です。

源流域に生活している自覚を持ち、清流を大切に守っていく必要があります。それがわたしたちの目指す「真庭ライフスタイル（多様な真庭の豊かな生活）」の実現にもつながっていきます。



旭川は瀬戸内海へ、そして世界へつながっています。

旭川など身近な自然環境を通じて、社会の問題や課題などに対しても自らの問題として考えていきましょう。

～みんなで考えていきたいこと～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



国連が2015年に「持続可能な開発目標(SDGs)」を全会一致で採択しました。経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組み、誰も取り残されない世界を実現しようという壮大なチャレンジです。

真庭市では、今後、世界と真庭市を結ぶ共通言語として、また、市民と市役所の情報や課題の共有手段として活用していきます。

環境基本計画と関連のある目標



質の高い教育



清潔な水と衛生



再生可能エネルギー



新しい技術とインフラ



持続可能なまちと地域社会



責任を持った生産と消費



気候変動への対策



海のいのちを守ること



陸のいのちを守ること



目標のために協力すること

計画の構成

第1部 計画について

計画の目的

市民や市役所がどのように行動していけばよいのかという指針になるものです。



真庭ライフスタイルを環境面から市民とともに実現
=エコタウン真庭=

計画の位置付け

上位計画や国、県の計画・方針を踏まえながら、真庭ライフスタイルを環境面から実現するための本計画の位置付けを示します。



計画の中での役割

目的達成に向けた市役所、市民の役割について、整理しています。



第2部 計画の基本的な考え方

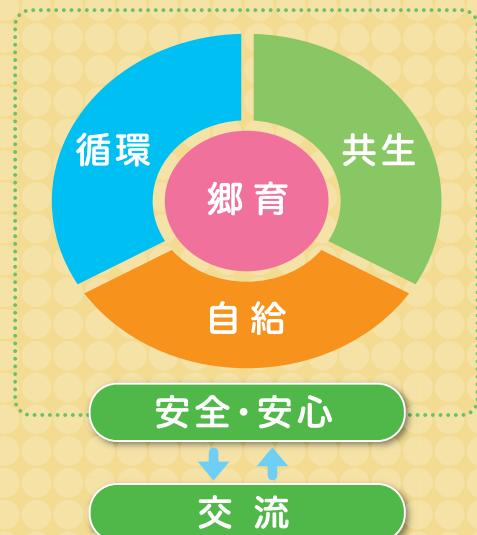
基本目標

多様性と循環性のあるまち

施策推進の主な柱

環境分野ごとに柱をたてて整理しています。

- ①安全・安心な生活環境の確保(安全・安心)
- ②循環型社会の形成(循環)
- ③生物多様性の保全(共生)
- ④再生可能エネルギーの推進(自給)
- ⑤環境教育の推進(郷育)
- ⑥関係人口の増加(交流)



第3部 目的達成に向けて

6つの柱ごとに、施策の必要性、取り組み内容等を整理しています。

1 目指す姿

2 現状と課題

3 方向性

4 具体的
取り組み

第4部 計画の進め方

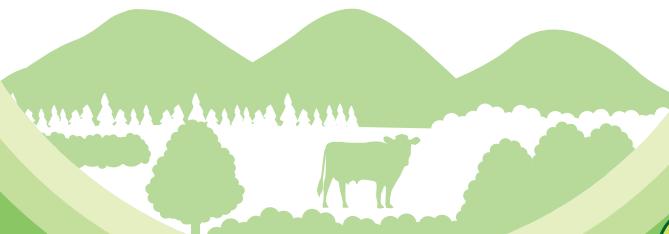
計画を実行性のあるものにしていくための考え方を整理しています。

- 点検と評価
- 他者との連携
- 計画の見直し



第二次真庭市環境基本計画

[第1部] 計画について



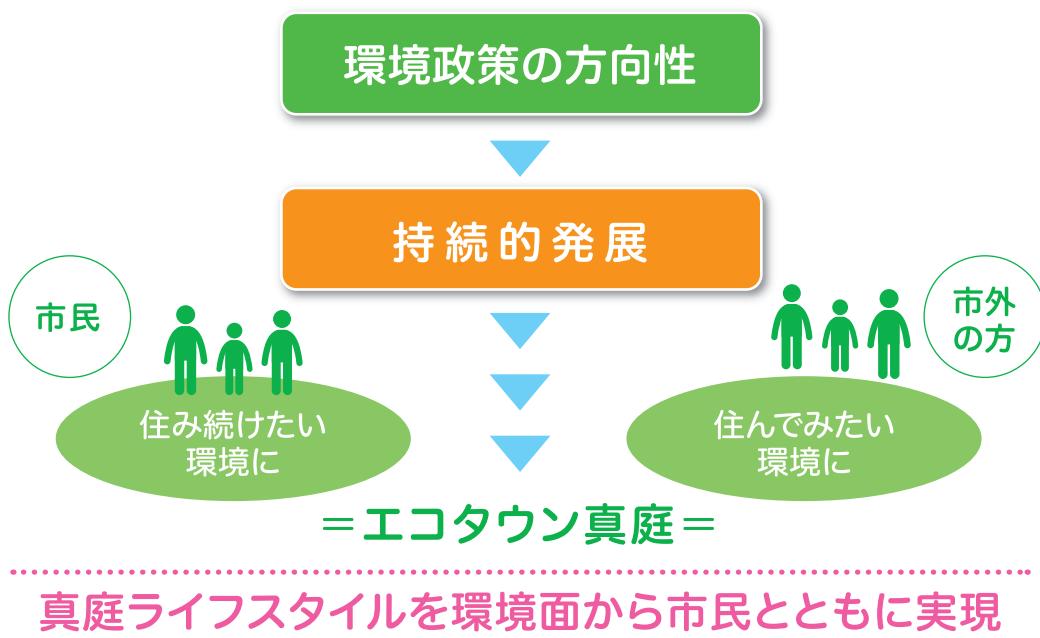
計画の目的

「水」「空気」「自然環境」は「有限の資源」です。これをいかに将来につなげていくのかを考えしていく必要があります。それには、行政の施策だけでなく、市民にとってもどこまで経済的負担や生活様式の見直しが必要であるのかを考えていくことが必要です。

本計画は、環境基本法第7条に定められる行政計画です。環境行政の最上位の計画として、今後の部門別計画・指針等を方向付ける重要な計画となります。また、市民にとっての環境の行動指針もあります。

真庭市は、この環境基本計画を定めることで、環境にやさしい「ひと」と「まち」づくりを推進していきます。真庭市を、市民にとっては「住み続けたい」、市外の人たちにとっては「住んでみたい」と思える地域にしていきます。

また、「ひと」も「まち」も豊かな自然環境から生み出される価値(=自然の恵み)を持続的に活用するエコタウン真庭を目指します。これにより、第2次真庭市総合計画にある「真庭ライフスタイル」(多彩な真庭の豊かな生活)を環境面から実現していきます。

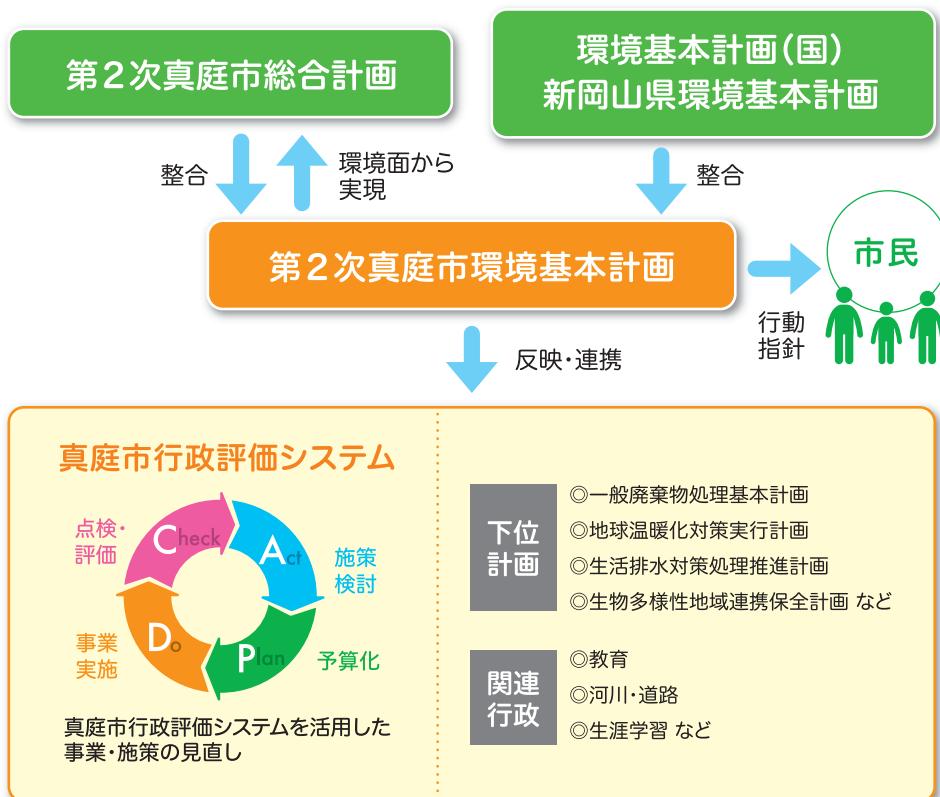


計画の位置付け

本計画は、真庭市の環境行政の最上位計画となります。第2次真庭市総合計画の実現を環境面から目指すものです。

また、国の環境基本計画や県の環境基本計画の方針を踏まえながら、策定しました。下位にある、各種計画に対しては、真庭市の環境の保全と市民への自然の恵みの還元のための取り組みの基本的な方向を示すものです。のために、真庭市行政評価システムにおいて、各種事務事業の点検・評価を行い、より良い事業の検討を行っていきます。

真庭市の豊かな環境を将来にわたって享受していくためには、市民の積極的な取り組みや連携・協働が必要です。本計画は、市役所の役割だけでなく、市民の役割も共有し、持続可能な開発目標(SDGs)に合わせて、2030年に向け一体となって行動する指針となるものです。



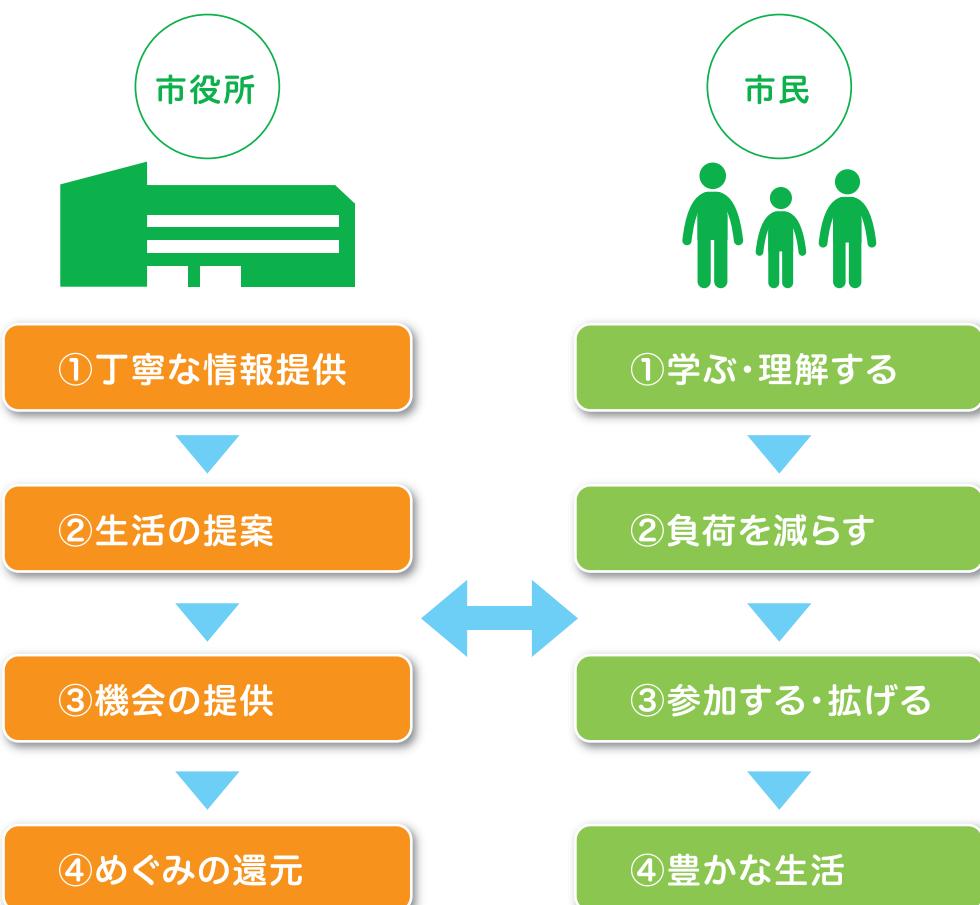
計画期間	2018年	2030年
SDGs	2015年	2030年

計画の中での役割

第2次真庭市総合計画では、「市役所」の役割が「行政サービスの提供・市政の運営主体」から、「地域政策を企画立案し市の経営責任を果たすこと」にかわりました。「ひと」(市民)と「市役所」とは対等で自立的な新しい関係をつくっていくこととしています。

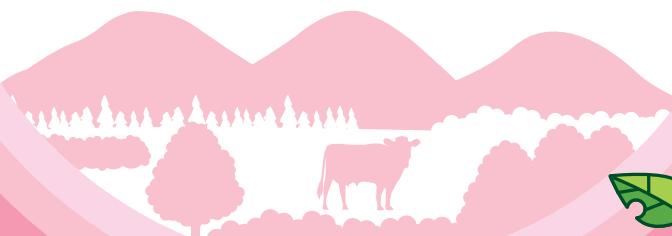
市民の知恵や着想を生かし「まち」の将来と一緒に想像し、市民が主役の真庭市の経営をする関係です。

第2次真庭市環境基本計画でもこの考えを踏まえ、真庭市の環境をよりよくしていくにはどうすれば良いか、その環境をどのように豊かな生活につなげていくのかということを、市役所が持っている情報を丁寧に説明し、市民のみなさんに理解・行動してもらい、豊かな生活へつなげていきます。



第二次真庭市環境基本計画

[第2部]
計画の
基本的な考え方



めざすまちの姿

基本目標

多彩性と循環性のあるまち

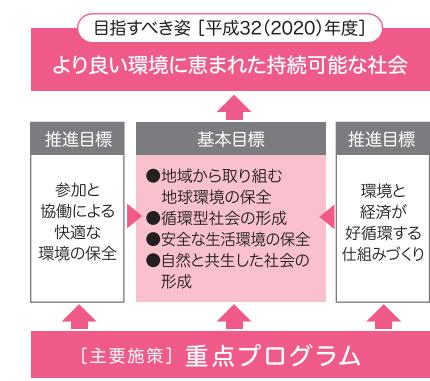
豊かな自然環境と調和した景観の中で、真庭市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイルを実現させています。地域の特性を生かし資源循環型のまちづくりを推進し、良好で快適な生活環境を創造することで、今よりも安全安心で多彩で豊かな生活が実現され、ライフスタイルが進化しています。(第2次真庭市総合計画抜粋)



第5次環境基本計画の 方向性(国)



新岡山県環境基本計画 (エコビジョン2020)



環境政策推進のイメージ

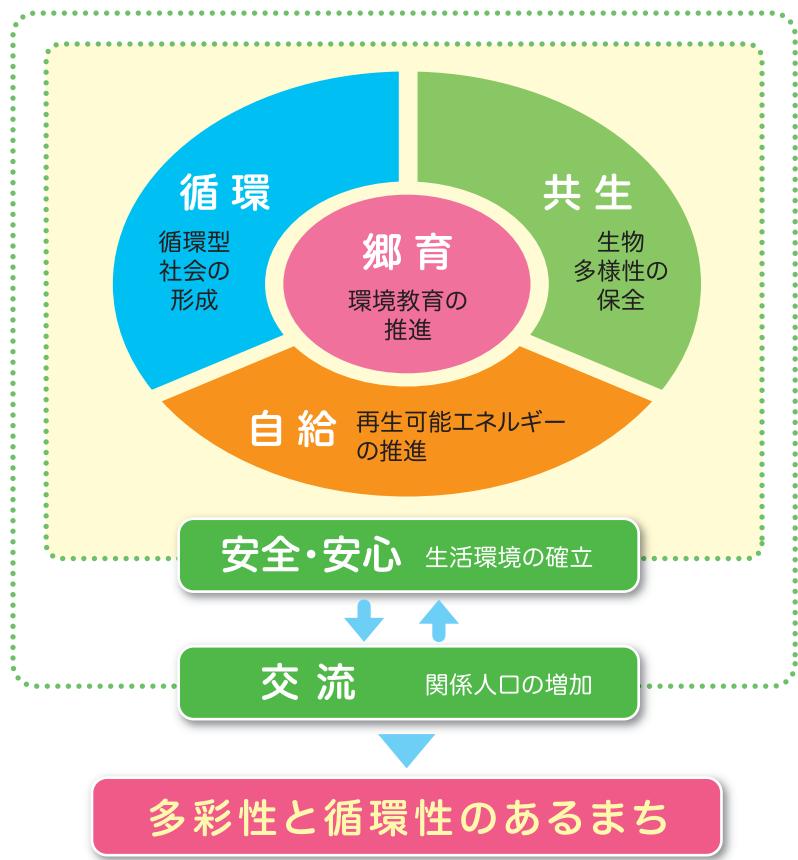
安全・安心の大前提是、空気・水・山・森・川などの豊かな自然環境です。

将来にわたって健康で快適な生活を送るためにも、それら環境へ負荷をできるだけかけない生活が必要です。(安全・安心な生活環境の確保)

その上で、豊かな生活を送っていくためには、多様な生き物に囲まれ(生物多様性の保全)、地域の資源を活用・循環(循環型社会の形成)させるとともに、未利用の自然資源の積極的な活用(再生可能エネルギーの推進)を検討し、できる限り外からの資源に頼ることなく、将来にわたってわたしたちの生活を持続可能なものとしていくことが重要です。

環境と社会・経済・日常生活との関連性について理解を深め、郷土の豊かな自然環境を認識し(環境教育の推進)、多くの関係人口に恵まれれば(関係人口の増加)、郷土の誇りにもつながっていきます。

市民一人ひとりが考え方行動し、「多彩性と循環性のあるまち」を実現します。



政策推進の主な柱

「安全・安心」「循環」「共生」「自給」「郷育」「交流」という6つのキーワードにより、環境政策を推進していきます。それぞれのキーワードについて、めざすまちの姿を設定し、目標にしていくこととします。

安全・安心

安全・安心な エコタウン真庭

清らかな水、さわやかな空気の中で公害のない環境で生活ができるよう、環境に負荷をかけない暮らしを心がけ、安全・安心で快適なまちを目指します。

循環

資源が循環する エコタウン真庭

「大量生産・大量消費・大量廃棄」型のライフスタイルを見直し、有限な資源の効率的な利用やリサイクルを進めることにより、資源の消費が抑制された循環型のまちを目指します。

共生

自然と共生する エコタウン真庭

豊かな自然からの恵みを理解し、将来の世代までその恵みを持続的に享受できるよう、生物多様性の重要性を認識し、自然と共生するまちを目指します。

自給

低炭素社会のエネルギー エコタウン真庭

市内の自然資源から生まれる再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、身近なところから温室効果ガスを減らす暮らしを心がけ、低炭素社会のまちを目指します。

郷育

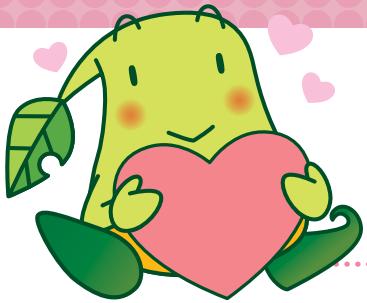
ESDを推進する エコタウン真庭

持続可能な社会づくりの担い手をはぐくむ取り組みの「ESD」の視点を広め、様々な世代を対象とした環境学習を推進し、みんなが環境について考えるまちを目指します。

交流

関係人口に恵まれた エコタウン真庭

旭川にみる「水のつながり」を生かした上下流の連携を活性化させるとともに、地域の自然資源の魅力を再認識し、発信することで多くの関係人口に恵まれた豊かなまちを目指します。



めざすまちのイメー

各施策の柱とSDGsの目標との関連を示しています。一つの施策が

安全・安心



生活からの環境負荷を減らし、
安全・安心で快適に暮らせるまち



循環



資源の消費が少ない
循環型のまち



共生



生物多様性を保全し、生態系から
の恵みを持続的に享受するまち



ジとSDGsとの関係



相互に関連しあい、持続可能な地域を目指していることがわかります。

自 紿



再生可能エネルギーを推進し、
低炭素社会のまち

- | | | | |
|--------------------------|----------------------|---------------------|--------------------------|
| 7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに | 11 住み続けられる
まちづくりを | 13 気候変動に
具体的な対策を | 17 パートナーシップで
目標を達成しよう |
| 再生可能
エネルギー | まちづくり | 気候変動対策 | 共働 |

郷 育



環境教育が活発に行われ、
みんなが環境について考えるまち

- | | | |
|-------------------|----------------------|--------------------------|
| 4 質の高い教育を
みんなに | 11 住み続けられる
まちづくりを | 17 パートナーシップで
目標を達成しよう |
| 質の高い教育 | まちづくり | 共働 |

交 流



地域の自然資源を生かした
多くの関係人口に恵まれたまち

- | | | | |
|-------------------|----------------------|------------------|--------------------------|
| 4 質の高い教育を
みんなに | 11 住み続けられる
まちづくりを | 15 陸の豊かさも
守ろう | 17 パートナーシップで
目標を達成しよう |
| 質の高い教育 | まちづくり | 生物多様性 | 共働 |